

サヴォア邸はパリ郊外のポワシー市に有り、サヴォア氏夫妻の週末住宅として第2次世界大戦前の1931年に建てられました。

ル・コルビュジエの提唱する「住宅は住むための機械である」、「近代建築の五原則((1)ピロティ. (2)屋上庭園. (3)自由な平面構成. (4)横長窓. (5)自由奔放なファサード)」などの言葉に示された、当時の新しい時代の感覚を具現化した作品です。最も有名な近代建築の住宅作品に位置づけられ、時代を超えて今もなお、多大なインスピレーションを与えています。

学生時代から写真や著書で目にしていたサヴォア邸を今回実際に肌で触れることができ、ここで感じたこと全てはとても伝え切れませんが、ル・コルビュジエは壁の建築家ということを改めて感じました。

1Fピロティから緩やかなスロープを進み浮遊する白い箱に上がるとコルビュジエの創意したひとつひとつの壁が緻密な計算を経てそこにあり、それぞれの空間を構成しています。特に立方体に開けられた横連想窓を内から見ると、窓であると共に壁を改めて意識する穿たれた開口であるかのように感じました。

